三条油小路町絵図より鋳物師釜屋庄三郎方

本能まちづくりニュース

第５０号　平成２１年7月１０日発行

本能まちづくり委員会
委員長　杉下浩教

E-mail:　post@honnoh.net
URL　　http://www.honnoh.net

本能まちづくりニュースのカラー版は、ホームページでご覧ください。

老いても暮らせるまちづくり　～第７回本能ものしり講座開催～

本能小学校が閉校になり、跡地に高齢者福祉施設が建設されることが周知されて 14 年。当初は「特養が建つの？？」という雰囲気でした。その後、学区の人口に変遷があり、現在は若い世代が増えています。しかし 10 余年前には若かった人達も年齢は確実に取り、高齢化の波はひたひたと近寄ってきました。そして高齢者福祉施設本能が開所されて 4 年。地元からも入所･利用者さんが出来、職員さん達の学区活動への協働･交流で施設本能は地域に定着。今では本能学区の「宝物の一つ」と誇れるくらいになりました。

写真［上］高齢者福祉施設　本能＝蛸薬師通から
［中］和の雰囲気一杯の一階出入り口＝辻子側から
［下］特別養護老人ホーム･デイサービスセンター･在宅介護支援センターの看板

家族で高齢者を介護していると、まちで「どうですか？」と声をかけてもらえるだけでもほっとします。また認知症の高齢者本人に普段通り挨拶されたり話しかけられたりすると、本人は勿論、付き添う家族も随分嬉しいです。家族はその瞬間に介護疲れが軽減される気分にもなります。まちの人々に温かく見守ってもらえることによって随分暮らしやすくなるものです。

老いは全ての人に平等にやってきます。老いても暮らしやすいまちをつくるためにどうすればよいか？まず正しい知識を得よう、高齢者への偏見や差別、そして老いへの不安を少しでも取り除きたい、という思いから、6 月 23 日午後 7 時から、本能自治会館 2 階会議室において第 7 回本能ものしり講座「老いても暮らせるまちづくり～認知症の人も安心して散歩できるまち本能～」を開きました（共催：本能社会福祉協議会・本能長寿会）。

講師は、もちろん高齢者介護のプロである高齢者福祉施設本能の職員さん達。特別養護老人ホームより相談員浦川良太郎・同ケアワーカー齋藤悦子、老人デイサービスセンターより相談員森 賢一、地域包括支援センターより主任介護支援専門員城谷砂織・同社会福祉士橘宏樹の各氏 5 名にお越しいただきました。まず、「本能」施設説明と利用状況、そして、気になる「認知症」についてのお話をうかがいました。

受講者のレポートをご紹介します。

「認知症」と優しいまちづくり

現在京都市の人口（H21.5.1 現在）は、146 万 7 千人。その約 22%が 65 歳以上、そしてそのうち約 20%の 5 人に 1 人が「要介護認定者」だそうです。では、「認知症」の割合は？…というと,85 歳以上の４人に１人が発症しているそうです。「認知症」とは、一連の行動のひとつ一つの作業ができにくくなっている病気です。例えば料理。カレーライスを作ろう…でも材料がわからない…。材料は揃った…でも調理方法がわからない…。一つの動作はできるのだけれど、その動作が繋がらない。または、できる事はあるのだけれど、できにくくなっている。そんな状態や状況が症状として表れてきます。日常生活の中で気づきやすい病気であるにもかかわらず、「認知症」についてのイメージはかなり間違ったとらえ方があるようです。患者である本人より周囲がたいへんな苦労をする、徘徊や物忘れが頻繁になり行動が支離滅裂になる…どちらかと言うと「厄介な」イメージを多く持たれています。周囲の人は、患者の理解しがたい行動や言動に順応できず、少しずつ敬遠し距離ができてきます。実際には、患者本人も現実についていけず焦りや焦燥がより増長しています。「いつも作っていたカレーライス」なのに「作り方」を忘れてしまっている自分に自信喪失してしまい、自分自身が失われていくと強い恐怖に陥ってしまう。けれど全て忘れてしまったわけでなく、材料があれば作り方を思い出すのです。

また、その方自身の生きてきた環境や世界に目線を合わせる職員の方々の体験談として、「ビンの中に息子がいる」とケアワーカーさんに話しに来た方がいたそうです。そう言われたら「そんなこと、あるわけないよ！」と言ってしまいがちですが、その職員さんは「よし！助けにいきましょう！」「助けましたよ！安心してください。」と、否定しないでその方の生きる真実に向かうのだそうです。また、毎夜 1 時間ごとに職員の詰め所を覗く方がおられ、ご家族からお話を聞くと、昔は看護師の仕事をしていたそうです。本人は毎夜夜勤の見回りをしているのだ･･･と受け止めて、ご身体を気遣いながら見守っているそうです。その方の言動には意味がある。本人なりの原因や目的がある。そして、その方のご家族の気持ちにも寄り添い、本人の世界を探りながら毎日アンテナを張り巡らせている。「認知症」を通して、介護職や相談の業務も知る事が出来ました。

講師の城谷氏と橘氏による、
コント「よくある町かどの風景」

森氏

浦川氏

齋藤氏

「よくある町かどの風景」として、職員さん達の劇でより分かりやすく関わり方を解説していただき、実体験を聞きながら、参加者が「認知症になってもやりたいこと」を話しました。祇園へ飲みに行きたい、グランドゴルフをしたい、嫌いな食べものを食べさせないでほしい、旅行が行きたい…。老いても地域で自分らしく生きることは、安心や安全だけでなく、精神的な心の繋がりが暮らしに溶け込んでいること…その為には家族をはじめ、周囲の人たちが「その人」を知ることが大切であることを学びました。

核家族の増加により、高齢者と子供とのかかわりが少なくなっている昨今において、やはりそのかかわりかたを難しいと感じても当然かも知れません。幸いにも我が学区は地域活動がさかんで、多世代の人とのかかわりの場が多くあります。そんな時に、ご挨拶はもちろんのこと、皆がお互いに声をかけたりかけられたり、多くの「声」が聞こえている学区であり続けることが老いても暮らせるまちであり、その中枢拠点の役割の一端を担ってもらう高齢者福祉施設本能を、「宝物の一つ」と言っても過言ではないのです。

この「宝物の一つ」は、ガラスケースに入っていませんし、鍵もかかっていません。けれど、憩いの場として地域の人が集わなければ「宝物」になりえません。この「宝物」を誰もが同じ認識で大切にしていくことも、誰にでも優しいまちづくりには欠かせない一つなのです。（ポニョ足）

講座参加者は70名ほど。20代から70代と年齢層も幅広く、学区外からも来られ、若い学生さんの中には、立命館大以外にも、まちづくり委員会のHPで知ったという同志社や龍谷大の方もおられました。

現在全国で「認知症を知り地域をつくる100ヶ年」キャンペーンが行われているそうで、参加者は「認知症サポーター100万人キャラバン」の証であるオレンジ色の腕輪をもらいました。

高齢者福祉施設本能は現在待機者が多く、入所希望は1000人待ち、デイサービス希望も100人待ちだそうで、緊急度で判断されるので、すぐ施設を利用できるわけではありませんが、地域に密着して支援する部署があるのでうまく利用し、介護保健を活用して住み慣れた地域で暮らしてほしい、と講師の皆さんは言っておられました。筆者も窓口に相談に行き、事態打開。以後ケアマネージャーさんに支えてもらっています。介護に関するお悩みがあれば、お気軽に相談窓口を利用されればいかがでしょうか。またこのような高齢者介護に関する講座がシリーズで開催されることを願っています。（N村）

■まちづくり委員会、今年度の取り組み■

昨年度、本能学区の『本能に咲かそうのれんの華』事業は「中京区にぎわいのあるまちづくり支援事業」の補助金交付対象事業となりました。本年度は「染めのまち本能」の「染め」を軸に学区の児童を中心に、職人さんとの出会い、伝統産業への認識を深めるワークショップなどを計画中です。さまざまな職業の住人の方の交流、次世代を担う子供たちへ住んでいるまちのことを知ってもらう機会となることでしょう。

今年度の取り組みも「中京区にぎわいのあるまちづくり支援事業」採択に向けて、現在申請中です。（あ）

本能まちづくり委員会 定例会

8月→ 8月4日(火)
9月→ 9月1日(火)
いずれも午後7時から
本能自治会館1階会議室にて

本能を住みよいまちに。 一緒に考えてみませんか？
当日飛び入り大歓迎！

◆◇◆◇◆　町家フォーラム見聞記　◆◇◆◇◆

主として京都の市中にある、木や土を使って建てられた木造建築で、住宅（職住共存も含む）に供されており、終戦以前に建てられた建物を「京町家」と呼称しています。このような京町家は「京都都心町家調査」によると 50000 軒を下らないだろうと云われています。この様な木造建築がかくも多数存在することは、世界中でも京都だけの一大特色であります。この町家を出来るだけ再生し存続させ、引いては京都らしい景観を形成していこうと、多くの人々が思っています。景観条例はそのような要望に基づいて作られました。

3 月 29 日、西陣織会館におきまして関西木造住文化研究会（略称　KARTH)主催「京の街なかに、伝統を受けつぐ現代の町家を創る」というフォーラムが開かれました。その講演の概要を報告することと致します。

【第１部　事例紹介】

姉小路界隈を考える会 事務局長・谷口親平氏

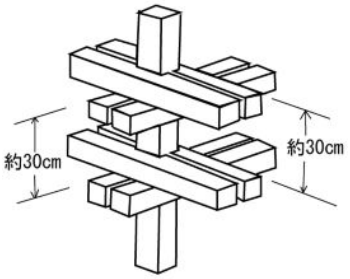
大阪ガスの跡地に、平成７年持ち上がったマンションの建設計画がまちづくりの出発点となりました。数年にわたる活動の結果、最高５階建ての中低層のマンション計画がまとまり実現することになります。これをきっかけに姉小路界隈の町づくりが展開し、看板の似合うまちづくり、灯りで結ぶ、花と緑でもてなす姉小路界隈、現代の町式目の策定、等が地域の人々に大きなインパクトを与えました。その後、京町家再生事業を開始、現在までに７件の事業を完成させています。

KARTH 事務局長・田村佳英氏、数寄屋研究所 心伝庵大工棟梁・木下孝一氏

上京区上立売通浄福寺西入る姥ヶ東西町の「ヒコバエの家」を京町家再生モデルとして改修され、その成果を報告されました。建物は江戸時代後期のもので、改修設計者は標記のお二人です。主な改修仕様は、柱は玉石または延べ石基礎の上に直接置き、基礎と柱は固定しない、屋根野地板を総厚 33～45 ㎜の二重張とし剛性と断熱性を高める、壁は土壁としバランスよく配置し耐震性を高める､外壁は厚 12 ㎜の焼杉板張りとし防火性を高める、等々。

大工棟梁・宮内寿和氏

新しい町家の工法を提案されている｡「４寸角挟み梁工法」です｡【図参照】柱に両側 2 本の梁を互いにくい込ませながら挟みつけ、それを上下間隔 30 ㎝程に 2 段作り、計 4 本の 4 寸角の角材で一つの梁を構成する工法です。柱と梁の接合部が回転しないほぼ完全な剛接合です。梁間(スパン)は 3 間まで充分可能とのことでした。価格は坪 70 万円程度とか。木造の新しい方向性の一つを示すものと思われました。



4寸角挟み梁工法

【第２部　パネルディスカッション】パネラーは前述３名の発表者と防火・耐震研究者の二人の先生方

早稲田大学教授・長谷見雄二氏

「ヒコバエの家」での発案を基に載荷加熱実験等種々の実験を重ねられ、木造土壁の防火・耐震性能を証明されました。土壁は防火性能が高く、厚さ 6 ㎝の土壁は火災相当の熱を 1 時間加え続けても、裏面の温度は 100℃程度しか上がらない。従って土壁は脱落や隙間がなければすぐれた防火構造と言えます。外壁の板張りについては、木材の炭化速度が 1 分間に 0.6～1.0 ㎜程度ですので、板厚が 15 ㎜ですと燃えつきるまで 25～15 分はかかることになります。それまでに消防が来てくれれば家は燃えなくて済みます。又木材は燃えると断熱性の高い炭化層が表面に出来、内部へ燃え進みにくくなります。鉄板は断熱性が低く熱は即内部に伝わるのであまり防火的とは言えないようです。軒裏は板厚を厚くする事で、面戸板は厚くするか漆喰を塗り込む事で防火性能を上げれば良いとのことです。

金沢工業大学名誉教授・鈴木 有氏

京町家は地震に対する備えに 4 つの仕組みを持っており、地震で潰れない様にする事は可能であると思っています。①柔構造化：京町家は太い柱と梁を噛み合わせて造った木組み構造である。地震力を受けて揺れながら地震力を消散させる。②剛構造化：要所に土壁を作る(垂壁、子壁、腰壁も耐震要素)。建物の揺れを抑え、土壁が壊れて地震力を吸収する。③免震構造化：柱を基礎に直置きし、基礎に固定しない。柱脚が滑り地震力を逃がす。④命綱構造化：土壁の中の厚い通し貫架構。貫を含む格子架構が倒壊をしのぐ。

以上京町家の耐震性について述べてきましたが、明治以降、日本社会は西欧化の風潮の中で、或る意味で伝統木造構法を捨ててきました。それでも昭和 20 年までは京町家は生きていたし建てられましたが、それ以降建てられなくなっています。阪神・淡路以降ようやく見直しを始めました。振動台実験等色々やっていますが、見直しは始まったばかり。法的にはお寒い限りです。京都市行政当局の取り組みに期待したいものです。

全体はコーディネーター・室崎益輝氏(関西学院大学教授)の名司会で締めくくられました。

振り返って私達の周辺を見ると､本能学区にも表通りに面した町家だけで､2 年程前に 270 軒程と数えられ、路地の町家を加えると 350 軒は下らないと思われます。本当に京町家を再生し、京都の景観の形成するには、中小の町家の再生なくしてはあり得ないと思っています。大きな立派な町家の再生だけでは本当の京都の町の景観形成はあり得ないと思います。以上、少しでも多くの人達が町家に興味を持って頂き「現代の町家を創って」(改修を通じての再生が主)頂きたいと思っています。　（大井市郎）

本能の歴史雑感　その２

元本能寺南町　高山禮蔵

城郭としての本能寺

天文14年、10年振りに京へ戻ってきた本能寺は諸堂を建築するに当り、境内の東端を西洞院川の西岸とし、寺域の周囲に堀を巡らす。その水は西洞院川から引いたのであろうか。平安建都の際、道中８丈(約24m)の西洞院大路の中央を西洞院川が流れていたが、700年を経た室町時代にはどの大路小路も道巾は狭まっていたと思われる。本能寺をこの地に建立する際、川の西側道路部分も境内に取り入れたようである。四条坊門より南は道巾も広くなり、その中央を川が流れる平安京創設時の面影を残している。

信長はその勢力圏を武力によって広げ、京の街もその支配下に収める。信長は上洛時の宿所を本能寺とし、それ相応の防備体制を整える。四囲に堀を巡らせてあるのもその条件を充しており、その内側は石垣と高い塀を築いていたかも知れない。寺院と云うより城郭としての形を整えたのであろう。現代の研究者の間では聚楽第築城以前の京都中心部の城郭として本能寺城と室町幕府の将軍、足利義昭の住む旧二条城、公方様御構がとり上げられている。

焼失した跡地に仮の講堂が建てられるが、秀吉の命に従がって寺町御池に移転、現在の本能寺となる。旧地の堀は埋められ、境内は整地され小川通が四条坊門以北に開設される。

江戸時代、本能の大名屋敷

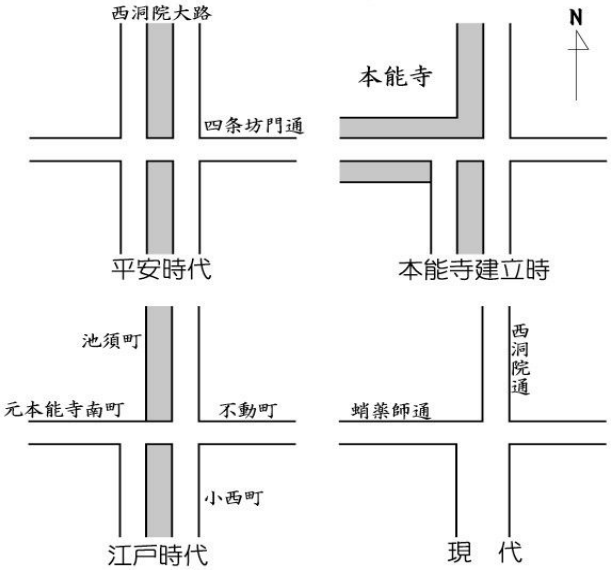
江戸時代になると諸国各地の大名は江戸屋敷を設け、参勤交代で幕府に仕え、江戸と国元を往復する。領国の米や産物を売捌くため大坂に大坂屋敷を設け、京には京屋敷を構える。その役割は私の察するに政治の中心は江戸に移ったが、学術、芸術、染織など工芸の中心は矢張り京であり、そう云った情報収集の拠点を京に設けたと考える。特に皇室や公家社会があると云う事は大きい条件では無さそうである。

元禄年間、私達の住む本能学区東西二町、南北四町の地域には堀川通、蛸薬師錦小路間に伊勢の津、伊賀の上野の城主藤堂氏の屋敷があった。現在の堀川高校の敷地である。その東北隅にある稲荷神社はその屋敷内にあったのを明治維新後、京屋敷を始末する際、地元の町内亀屋町にその後の維持を頼んだのが現在に続いていると聞く。

六角通油小路、堀川間北側に丹波福知山の城主朽木氏の屋敷があった。後に丹波篠山の青山氏の屋敷となる。現在越後町北側、青山路地の名はこの青山氏の名に由来する。路地の奥、突き当りに越後神社、弁財天が祀られているが、これも邸内の庭園の池の小島に祀られていたのが現在に残っているもので、私が小学生の昭和10年代には未だ社の周りは池が残っていた。

醒ヶ井六角、蛸薬師間、越後突抜町の東側に近江、小室の小堀氏の京屋敷があった。これは小規模なもので江戸時代末期売却されている。因に小堀氏の先祖は小堀遠州(1572－1647)で武将ながら建築や造園の術に優れ、江戸、二条城の造築、桂離宮や大徳寺の庭園造りを行う他、茶道遠州流を始める。近江の小室は城ではなく陣屋であったと思われる。錦小路西洞院、油小路間空也町北側に播磨姫路の城主、池田氏の京屋敷、西洞院錦小路、四条間の蟷螂山町西側に筑後久留米の城主、有馬氏の京屋敷とこの本能学区には大小五ヶ所の大名屋敷が存在していた。明治期に入るとこれら屋敷は撤去され人家が建並んだり、学校用地となる。そこには多くの染色工芸関係の職人が住みつき、染のまち本能へと発展していく。

西洞院蛸薬師角（本能寺東南角）の変遷



「本能の歴史雑感」の続きは次号に掲載いたします。

学区情報

本能体育振興会主催「歩こう会」

4 月 29 日の祝日に本能体振の名物行事「歩こう会」を長岡天神方面で実施したところ、50 名の参加をみました。

四条大宮より阪急で長岡天神まで行き、まず乙訓高校の芝生のグランドを見学しました。これは、本能グランドの緑化芝生計画が持ち上がったため、実際に芝生を見て、それにふれてみようというものです。参加者は小学生からお年寄りまでの広い年代にわたり、グランドの芝生の上で寝ころんでその感触を楽しんでおられました。「この快適な空間が本能グランドにもあればいいなあ」というのが参加者の素直な感想でした。

次に向かったのがサントリーのビール工場でした。広大な工場を見学した後ビールの試飲があり、気温の高かった「昭和の日」に冷たいビールがおいしく、お茶・ジュースもあって 1 時間があっという間に過ぎました。再び長岡天神駅へ向かい、天満宮の霧島ツツジの満開を楽しんで解散となりました。

通常の「歩こう会」の倍ほどの参加人数があったことは、芝生への関心が高かったためと考えられます。学区民の期待にこたえられる活動は、各団体の連携と協力なくしては出来ません。

（本能体育振興会会長 久保周三）

「自分の地域は自分で守る」
～5 月 7 日 本能自主防災会総会～

大きな災害が発生しますと公的機関、つまり消防、警察、自衛隊だけでは対応しきれないという事が、神戸の震災やそれ以後に発生している震災等で明らかになっています。

神戸の震災で発生直後に救出された 9 割以上の人が近隣の人によると言われています。しかし一方では、発生 1 週間経過後に死亡しているのが発見され、その死因が家具の下敷きになったための餓死という事例もあります。

プライバシー等の問題もありますが、家族構成くらいは隣近所お互いに知っていてもいいのではないでしょうか。

災害が発生して否も応もなく消火、救助活動等をしなければならなくなった時、そのための知識や技能がなければ右往左往するだけの烏合の衆になってしまいます。自主防災会では今後も様々な訓練を行いますので、是非多くの学区の皆様にご参加いただき、近い将来必ず発生すると言われている震災に備えていただきます様お願いします。

（本能自主防災会会長　倉部邦夫）

信頼される消防分団に　中京消防団総合査閲

5 月 24 日、中京消防団総合査閲が、午前 7 時から島津製作所グランドで実施されました。

査閲とは、各分団の 1 年間の活動（予防・警防）、簿冊（1 年間の書類等の整理）、分団器具庫の整理整頓状況、日常の訓練と、当日に行われた分団員の職務遂行に必要な規律、礼式等状況、分団員の団結力、士気、協同動作等を審査する通常点検、又、災害現場活動に必要な知識と技能の習得状況を審査される、小型動力ポンプ操法の実技で、中京各分団の順位が決定します。

本能分団は、5 月中旬から毎晩訓練を重ね、その訓練の成果は、いずれも真剣で規律厳正なものであり、大変優秀であったと自負しております。日頃からのこうした訓練が、有事の際には大きな力を発揮してくれるのだと思っております。

本能分団は、何時かは来ると云われている大震災（来ては困るのですが・・・・・）又、日常の火災予防のため、『自分たちの街は自分たちで守る』のスローガンの下、毎月 5 日、20 日。月末の地域全域巡回広報で、学区住民の方の安全、安心を守るべく活動しております。

このような活動を維持していくにあたっては、多くの人材が必要です。消防団は皆様に最も身近で地域に密着した機関として、地域防火防災において重要な役割を担っております。そして消防団員の身分は、特別職の地方公務員です。

本能分団では、男女を問わず新団員の募集をしています。このようなボランティアに興味のある方はお近くの分団員にお尋ねください。あなたの『力』と『心』をお待ちしております。

最後に私事でありますが、平野前分団長が、中京消防団副団長に昇任されましたので、4 月 1 日付をもちまして、本能分団分団長を拝命いたしました。微力ではございますが全力を傾けて責任を果たし、地域住民の方から信頼される分団を目指して地域の防火防災活動に取り組んでいきます。

今後ともご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。（本能消防分団　分団長　源田眞一）

「割れ窓理論」実践運動に参加

6月6日午前8時45分～11時、「割れ窓理論」実践運動が本能・明倫学区で行われました。

「割れ窓理論」とは、アメリカの犯罪学者が考案した理論で、「建物の窓が壊れているのを放置すると、誰も注意を払っていないという象徴になり、やがて他の窓もまもなく全て壊される」という考え方から名づけられたそうです。

京都府府民生活部安心・安全まちづくり推進課では、この活動を平成20年度から行い、今回近隣地域での実施となりました。

山田京都府知事を筆頭に、府職員ボランティア“京都府庁落書きバスターズ”学生ボランティア団体“ワンピース”・警察官に、本能学区民が加わり70名ほどで、グループに分かれ、本能・明倫学区の落書き・貼り紙撤去を行いました。

京都府のほうで、既に撤去すべき落書き貼り紙の箇所が調査され、撤去のためのシンナー・ネオリバー等の除去剤や、スクレイパー・たわし・軍手・ウエス・箒塵取り等の道具が準備されており、作業効率は上々でした。綺麗になった電柱を見ると、やはり気持ちよかったです。気付かれた方もおいででしょう。このスッキリした状態で祇園祭を迎えたいものです。

本能学区では、年間を通じて防災・防犯パトロールを行っていますが、夜間であり、落書き・貼り紙はよく見えません。昼間に、学区内の迷惑な落書きや貼り紙に気付かれましたら、どうぞ五条少年補導委員会本能支部長(安西賢一氏)にお知らせ下さい。京都市では「屋外広告物等に関する条例」に基づき、条例違反の広告物撤去の権限を支部長に委嘱しています。また、もし高所であったり、大量で手に負えない場合は、京都市都市景観部市街地景観課(TEL222-3474)に知らせると撤去に来てくれます。学区の美的環境を守り、犯罪を防止しましょう。(N村)

平成21年度 本能学区事業予定

2009年7月24日(金)	祇園祭還幸祭
8月22日(土)	本能夏まつり
9月21日(祝)	敬老会
10月11日(日)	区民体育祭 〔予備日10月12日〕
11月15日(日)	おいでやす染のまち本能
12月23日(祝)	餅つき交流会
2010年1月1日(祝)	新年互礼会
1月11日(祝)	本能成人式
3月21日(祝)	本ものに出会える日

夜、三条通を 3 基の御輿が通ります。

通りの軒先にかかった「のれん」の風情も是非お楽しみください。

各事業の詳細は、回覧、ポスター等をご覧ください。

△△△ 本能グラウンドが芝生になります △△△

6 月 14 日、土の本能グラウンドを芝生化するために、芝生ポット苗の植え付け作業が行われました。作業には京都御池中学校・堀川高校の生徒、高齢者福祉施設本能の職員はじめ本能学区各種団体から、約 130 名がボランティアとして集まりました。

平野自治連合会会長、久保体育振興会会長の挨拶の後、京都しばふ工房・田村氏より、苗の植え付けに関する説明がありました。あらかじめグラウンドには 50 センチ間隔で穴が空けられ、参加者はポット苗 1 シート 25 個を受け取り、一つずつ苗を植え付けます。周りの土を整え、靴で踏み付け、そしてその苗がきちんと土から出ているか確認して植え付けは完了します。

しばふ工房の話によると、本能グラウンド(約 700 ㎡)に植えた芝は「バミューダグラス」という耐性の強い種類で、一般の芝と比べて成長率もよく、また衝撃にも強いため、植えた直後から踏んでも大丈夫とのことです。植えた苗は、根が張るまで朝晩の水やりが欠かせませんし、成長が早い種類だけに刈り込みも必要ですが、8 月末にはグラウンド全面が緑で覆われることになるということです。また冬場には枯れるため(根は残っています)、10 月に冬芝(ペンシルニアライグラス)を蒔きます。冬芝があることで、夏芝(バミューダグラス)の根を守ってくれるので、また夏に青々とした芝が生えてくるそうです。

ボランティアとして参加してくれた堀川高校剣道部の男子生徒は「植え付け作業は汗をかいたけど、部活の時に芝の成長を見るのが楽しみです」と話してくれました。当初、植え付け作業には 2 時間を予定していましたが、多くの人がボランティアとして参加してくれたため、1 時間足らずで終了しました。梅雨の中休みの汗ばむ陽気のなか、ご協力いただいた皆さん、本当にお疲れ様でした。(ゆ)

△△△ 本能公園も芝生に △△△

6 月 27 日、本能公園の芝生苗植え付け作業が行われ、京都御池中の生徒 12 名をはじめ、高倉小児童、長寿会の方々など 50 名以上が参加してくれました。京都しばふ工房の方から作業についての手順を教わり、ひとつずつ芝生ポット苗を植え付けました。

公園愛護協力会の穐山英次会長は「子供さんたちが青々とした芝生の上で寝転ぶ姿を想像しただけで、嬉しくなります」と話していました。小さなお子さんと親御さんにとって、本能公園は更に優しい集いの場となりそうです。(ゆ)

炎天下の作業、ご苦労さまでした。
(左から)高倉小、長寿会、京都御池中の皆さん＝本能公園にて

☆　本能まちづくり委員会ホームページに「グランド芝生化大作戦」を掲載しています。そちらもご覧下さい。

ひとりごと ◎今回のまちづくりニュースは「50 号」という節目にあたり、テーマ満載の特別仕様(！)です。今後も「本能らしさ」をお伝えできるよう、地域の話題を開拓します。(ゆ)
◎本能グラウンド・公園に芝生が植え付けられました。見切り発車・問題先送り感もあるようですが、合意形成がなされて、芝生が青々と育つことを望みます。(N村)

本能まちづくりニュース 50 号編集:本能まちづくり委員会広報部